



大規模マンションにおける 災害協力隊の取組

～災害用トイレ等の資機材導入と継続的な訓練～

東京都江東区 ルネ門前仲町管理組合
理事長兼災害協力隊長 小川 昭弘



1 はじめに

ルネ門前仲町は、下町情緒の残る江東区深川地区の隅田川沿いに建つ466世帯約1,000人が居住する大規模マンションです。

災害協力隊は、「自分たちの町は自分で守る」という信念のもと、28年前に結成してから長年にわたり精力的に活動して参りました。

活動の中心となる防災訓練では、全住民を対象に、安否確認や物資運搬、災害発生時の初期対応などを継続的に実施し、住民の防災意識の向上を図ってきました。

また、独自で開催した防災講話会で「災害時の大きな課題はトイレである」ことを知り、災害用マンホールトイレの検討を開始し、令和4年に設置することができました。

2 災害用マンホールトイレ

阪神・淡路大震災を経験した住民からの「震災時のトイレ対策は重要」との意見から端を発し、検討から7年を経て完成に至りました。

これに至るまで、住民説明会や対話会を2年間にわたって6回実施し、災害トイレの説明の前に、地震が発生した場合のマンションへの影響を具体的に説明しました。例えば地震発生後排水管が破損していると、上階からトイレなどの水を流すと、1階のトイレから汚水が溢れ出るなどの問題点があることを説明し、設置に向けたマンション管理組合としての合意形成を図りました。

また、実現に向けた大きなポイントとして稼働時の衛生面や臭気の問題がありますが、これはマンション敷地内の雨水貯水槽を活用することで災害用マンホールトイレを設置できることが判明し、東京都下水道局等関係機関と協議を重ねて可能となりました。

これにより、専用の手押しポンプで雨水貯水槽から水をポンプアップし、新たに開削したトイレ専用の貯水槽に貯めて、傾斜のついた排水管に一気に流し込むことにより、電気等の動力源は一切不要で衛生的な水洗トイレが6基も縦列で設置可能となりました。



災害用マンホールトイレ設営



雨水貯水槽からのポンプアップ



東京消防庁消防総監賞受賞
(深川消防署長災害トイレ視察)

新たに設置した排水管の先の至近距離の場所に耐震補強された本管が通っているため大震災時でも稼働できるものとなります。

3 活動内容

〈防災講演会〉

自治体の防災担当者やNPO団体代表など「防災」専門家を講師としてお招きし全住民対象の無料講演会を開催。講演内容は大型マンションにおける震災時の危険性や対処法、また「震災への備え」など多岐にわたり、マンション全体の防災意識向上を目指しています。

〈防災設備の立案、設置、拡充〉

災害マンホールトイレの資機材の他、階段避難器具2台、発電機1台、蓄電器（ソーラーパネル付き）1台、投光器2台を整備、敷地内にて保管管理しています。

また、「震災時の安否確認」用にドアに張り出す「“無事です”マグネットシート」を災害発生時に速やかに救助活動が行えるよう全戸に配布しました。

〈防災訓練〉

全住民対象の「防災訓練」と「防災機材稼働訓練」を毎年実施しています。直近の訓練では、「疑似震災発生訓練」として仮想「震災発生時間」を決め、アナウンスと共に各戸一斉に訓練スタート。



階段避難器具の訓練

各自宅で行う「シェイクアウト訓練」や階段毎に住民が“無事です”シートを確認する「安否確認訓練」、飲料水など支援物資運搬の「滑車昇降訓練」「マンホールトイレ設置訓練」など実体験に近い模擬災害訓練を開催しました。

4 今後の対応と課題

1) 災害協力隊員の若返り

現役世代並びに子育て世代の住民に多く隊員になってもらえるよう情宣と活動を強化し災害時の機動力を向上させたいと思います。

2) 近隣小学校との連携強化

共働き世帯が増える中、保護者の帰宅困難も想定されるため、大震災発生時の下校時の児童の安全確保と見守りを企図し、校長・副校長と協議を開始しました。

また、全校生徒と共に防災体験学習会に参加し、災害時の学校避難所運営の役割を担うことを実践しております。

3) 震災時のペットの帯同と避難所運営

最近話題になりつつあるペットの帯同生活について、ペットクラブ代表者と課題を擦り合わせしながら、その備えを構築したいと思います。

4) 近隣町会との連携協定

江東区の防災施策を活用し、水災発生時に当マンションを近隣住民の一時避難場所に提供する等、日頃からの近隣町会との情報共有とコミュニケーション強化に努めていきたいと思っています。



防災体験学習会